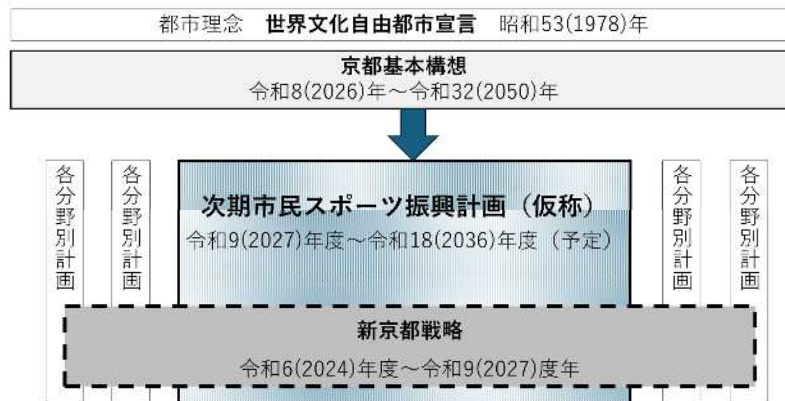


次期京都市市民スポーツ振興計画（仮称）の構成検討案

1 計画期間

令和9年度～令和18年度（10年間）

2 次期計画の位置付け



本計画は、京都市が都市理念に位置付けている「世界文化自由都市宣言」の下、京都市と京都市民の四半世紀の在り方を展望する「京都基本構想」を具体化するための分野別計画に位置付けるもの。

3 現行計画の総括

【現行計画の記載内容】

(1) 目指すべき姿

- 目標1 : スポーツを楽しみ、スポーツを通して健康で心豊かな暮らしを築いている
- 目標2 : スポーツを通して、多様な人と人とがつながっている
- 目標3 : スポーツを身近に感じ、スポーツがまちの魅力を高めている

(2) 数値目標

- 「する」 目標値65%以上
- 「みる」 目標値50%以上
- 「支える」 目標値10%以上

4 国の動き、京都市のスポーツ行政を取り巻く課題整理

【社会の変化】

- 急速な少子化・高齢化・人口減少
- 人手不足
- デジタル化の進展
- 価値観・ライフスタイルの多様化
- 気候変動・災害の激甚化

【国の動き】

- 改正スポーツ基本法施行（令和7年9月）
⇒スポーツに社会課題を解決するための役割を期待
- 第4期スポーツ基本計画の策定（令和9年4月予定）
- 国民スポーツ大会のあり方見直し
- 部活動の地域展開

【京都市】

- 若年層のスポーツ離れ、離脱層の増加
- 地域(競技)スポーツの担い手不足
- 運動施設の老朽化、利用のハードルが高い（予約困難、利用料）
- 部活動の地域展開（令和10年9月～）

5 本市基本構想等におけるスポーツの位置付け

【京都基本構想】

第一節 歴史と文化を期して人間性を恢復できるまち

（3）「夢中」と「感動」に溢れ、学び続けられる

・・・特に、わたしたちの京都市の未来を担う子どもや若者が、このまちの自然や歴史と文化を通じて豊かで鋭敏な感性を育み、学問から藝術、武道、技藝、さらにはスポーツに至るまでのさまざまな物事を個性に応じて追求できるまちであり続ける。・・・

【新京都戦略政策集】

2 居場所と出番により、つながり・支え合う「包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できるまち」

（3）スポーツによる人づくり、健康づくり、地域づくりを通じた心豊かな社会の実現

6 次期京都市市民スポーツ振興計画（ビジョン）におけるスポーツの範囲

競技スポーツに加え、日常生活における身近な運動やレクリエーションスポーツ等も含める。〔第3期スポーツ基本計画〕

7 施策展開の基本的な考え方

新京都戦略に掲げる以下の3つの観点を基本的な考え方とする。

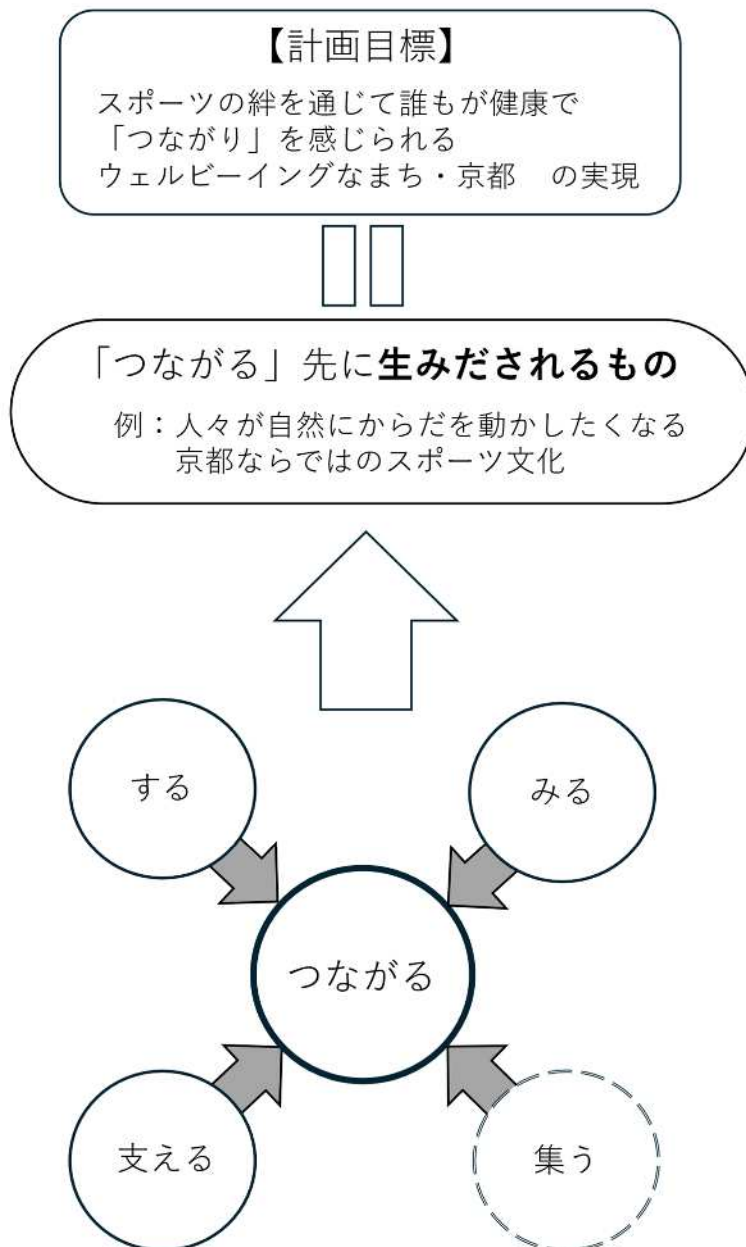
- ① スポーツによる人づくり
- ② スポーツによる健康づくり
- ③ スポーツによる地域づくり

上記の考え方を基軸に置いて検討する施策・事業を「する」、「見る」、「支える」、「集う」の観点で体系化し、「つながる」に集約させる。

8 計画目標

スポーツの絆を通じて誰もが健康で「つながり」を感じられる
ウェルビーイングなまち・京都の実現

(イメージ)



9 施策

<着眼点・キーワード>

- ・ ウェルネスとの連携
- ・ 地域スポーツの活性化（体振、スポーツ推進委員、総合型クラブ等）
- ・ 部活動の地域展開
- ・ 若年層（未就学児含む）のスポーツ環境の確保・充実
- ・ 競技志向だけでなく、ライト層に対する働きかけの強化
- ・ 学生や働く世代（離脱層）へのアプローチ
- ・ 生涯スポーツ（WMGのレガシー継承）
- ・ パラスポーツの振興
- ・ スポーツへのアクセスを保障するための必要な施設等の維持
- ・ プロスポーツチーム等との連携による地域の活性化
- ・ DX、AIをはじめとするデジタル技術革新への対応

（１）「する」

【現計画で掲げる施策の括り方】

- ・ 施設の効果的・効率的な整備・運営
- ・ 年齢や個性、環境に応じてだれもがスポーツを楽しむ機会の提供
- ・ WMG等の大規模国際スポーツ大会開催と連動した生涯スポーツの振興

【次期計画で掲げる施策や取組（案）】

○スポーツを「する」環境の整備

- ・ 施設の改修・老朽化対策
- ・ 新たなニーズに即した施設の整備
- ・ 民間施設の公共利用促進
- ・ 身近な公園等のスポーツ利用の促進
- ・ 施設整備に係る長寿命化計画の策定
- ・ スポーツ施設の整備・運営における民間活力の更なる活用促進
- ・ 競技ニーズの多様化に即した受入種目の拡充

○日常生活におけるスポーツ活動の習慣化・定着化による健康寿命の延伸

- ・ 日常生活に取り入れられる運動機会の醸成
- ・ レクリエーションスポーツの普及・振興の取組の強化
- ・ スポーツ実施率が低い層（離脱層、大学生、子育て世代）へのアプローチ

○子どものスポーツ活動の推進

- ・ 部活動地域展開の着実な実施
- ・ 市内小中学生の体力増進に向けた取組

○産業界や大学等との連携によるスポーツ機会の拡充

- ・ 企業等の健康経営の推進＜運動施設利用補助、社内運動イベントの推奨＞
- ・ 大学生を対象とするスポーツ勧奨の取組

○競技スポーツと大規模大会

- ・競技力向上の支援
- ・トップアスリートとの連携によるスポーツ振興
- ・持続可能な京都マラソンの実現
- スポーツへのアクセス創出
 - ・資源マップの作成 ※「部活動地域展開」関連

(2)「見る」

【現計画で掲げる施策の括り方】

- ・競技環境と観戦環境の充実
- ・総合スポーツイベントなどの開催
- ・競技スポーツへの支援とその魅力の活用

【次期計画で掲げる施策や取組（案）】

- プロスポーツ・競技大会との連携
 - ・プロスポーツとの更なる連携＜ホームゲームの市内開催＞
 - ・大規模大会等の誘致・継続開催の働きかけ
 - ・持続可能な京都マラソンの実現
- 観戦環境の確保
 - ・施設の改修・老朽化対策を通じた「見る」環境の確保
 - ・公共施設におけるパブリックビューイング等の実施
- 情報発信
 - ・大会等の情報発信の強化＜SNS等の活用＞
 - ・「京都スポーツの殿堂」事業の推進

(3)「支える」

【現計画で掲げる施策の括り方】

- ・スポーツを支えるしくみづくり
- ・だれもが利用しやすい施設の提供
- ・スポーツを支える組織や団体等との連携・協働
- ・京都市スポーツ振興基金の活用

【次期計画で掲げる施策や取組（案）】

- 人材の育成と組織化
 - ・スポーツボランティアの組織化
 - ・部活動地域展開に向けた人材バンクの構築
 - ・指導資格取得者の増加＜資格取得支援＞
 - ・幅広い分野との連携によるしくみづくりの推進
 - ・ボランティアの裾野を広げる取組と機運の醸成
- 産学との連携
 - ・企業と大学を結ぶ取組の検討
 - ・健康経営等に取り組む企業の表彰等

(4)「集う」 ＊追加

【次期計画で掲げる施策や取組（案）】

- 拠点の再整備と多目的利用
 - ・西京極総合運動公園の再整備
 - ・運動施設等の多目的利用の促進
- 社会課題への対応
 - ・孤独・孤立対策＜「誰一人取り残さない社会」の実現に向けた取組＞
 - ・居場所づくり、出番づくり
- 大会の活用
 - ・持続可能な京都マラソンの実現